た、池川・満濃農試研究時報 21, 53-33(1937)

土壌腐植の特性判定に関する研究要報
土壌中の腐植質をNa₂CO₃、NaF、NaOH
等で湿出して、その湿出液の色調及び色調を
Zeiss の ステファノメーターを用いて測定し、
Extinktionsskoef. k を以て 色調及び
色調の曲線を示す。土壌腐植の特性を一
目瞭然たらしめる。又土壌腐植質の湿出
液を活性Al₂O₃(発熱させるもの)を塗布した
細管の中を通し、Johm Adsorptionsanalyse
によって腐植質中の各組成を分離した
後、之に紫外線を照射すれば Huminsüre、
Hyamotolinsüre、Phyinsüre 等は各々
特有の発光を示す。之によって腐植の
特性の判定に土壌型の判別に貢献得
る。A. Honk, Rodentia sel. Pflanzenwlth.,
5(50), 1-26(1937) 三井

実験室内の土壤養分含秋検定の応用価
値は如何にすれば最も良く味知出来るか
土壌の有効養分含量を実験室内で検定し
ようとする企は近年非常に多い、この研究は
作物栽培の経済には極めて重要なものであ
るが、これ等の検定法が如何に程度に
まで利用価値あるものであるかに就ては
充分に味知る方法がない。又実験方法が
之に於て適当なる方法では養分の極端
な欠乏は知り得るとしても、養分
が充分に貯蔵されている場合を知るには
完全であり、養分がどれだけ過剰であるか
は全く知ることが出来ない。従って此等の
方法は土壌の栽培方法を味知る標準とし
ては充分なものではない。著者は此の標準
として極めて重要値の周囲試験を提案し、
その有用なることを詳細に研究する
H. Kruber, Rodentia sel. Pflanzenwlth.,
4(49), 30-50(1937) 青峰

定数する銅鉄なる比重計(Hydometer)
従来の比重計は 11 に就き粘土 0-60g の範
囲を有し目盛 1g 宛であつて少量の粘土
及び腐植物を定量するには不適當であった
が之を改良するために範囲を 11 に就き
粘土 0-10g となし目盛 0.2g 宛とした。

本器を使用して土壌懸濁液中の粘土を定
量した結果は懸濁液を蒸発乾燥して残渣を
呼称した結果と値を一致した。既述の土重
を有する土壌に就ては結果が不間であつた。
G.J. Batyefoss, Soil Sci., 44, 245-7(1937)

土壌形態と東アフリカの二つの植物型
Tanganyka の高原に grey cement とよば
れる灰色又は黒色の粘土の多い傾斜の土壌
が広く分布し、主として Itigi の森林带に
分布する。之と並んで主に高原の顕在傾
斜地に花崗岩層の A-C 土壌が混在して
は Bryoestigia-Tesherdinia 及び Combretum-
Terminalia によって被覆されている。前
者の種々の中間形態が見られる。G. M. Henne.
J. Geology, 25,254-8(1937) 小野

作物栽培の結果として生ずる西部アリ
ト土壌の有機物の変化 連年作物を栽培
させる土壌と然るべき土壌に於ける有機物の
変化を 7 series の土壌 73 に於て測定した
結果西部アリト土壌は作物を栽培せる
場合に於て有機物含量を増加し、作物を栽
培せる場合に就ては 23% の増量を示し
た。有機物の性質は作物栽培の結果著しく
改良された。之は土壌中の有機物残渣が森
林带(forest type)より耕作型(cereal type)
に変化するためであり、L.G. Wheating,
Soil Sci., 44, 139-49(1937) 小野

植物群落の見からアフリカ土壌腐植の有機
組成に就て(第2報) 腐植質物質に就て
土壌腐植中に現れる有機物の有機物型に
マトウアラの所謂 Humusbegleistoffe 及び
土壌の植物群落との関係を知る目的で全北
州し星巖山出合より採集せる Pims tacnae-